お散歩感覚で
鯖江の市民活動がわかっちゃうブックレット

OSANPO

～5歩目～

OSANPO

■サバフェス…4ｐ

■鯖江人形浄瑠璃「近松座」…6ｐ

■音訳ボランティア くさぶえ…8ｐ

■(一社)ふくい動物愛護管理支援センター協会…10ｐ

■N・P・Oのひとびと 第1回
「日本NPOセンター」の巻…12ｐ

■チラシ&ポスターで振り返る
さばえNPOサポートのH27年度…15ｐ

■地蔵橋保存会…16ｐ

■鯖江市産業観光
ボランティアガイドの会…18ｐ

■(特活)ハートオブマインド…20ｐ

■編集後記座談会…22ｐ

目　次

巻頭特集「サバフェス」	4ｐ－5ｐ
団体紹介①「鯖江人形浄瑠璃『近松座』」	6ｐ－7ｐ
団体紹介②「音訳ボランティア くさぶえ」	8ｐ－9ｐ
団体紹介③「(一社)ふくい動物愛護管理支援センター協会」	10ｐ－11ｐ
特集「N・P・Oのひとびと」第1回「日本NPOセンター」の巻	12ｐ－14ｐ
特集「チラシ&ポスターで振り返るさばえNPOサポートのH27年度」	15ｐ
団体紹介④「地蔵橋保存会」	16ｐ－17ｐ
団体紹介⑤「鯖江市産業観光ボランティアガイドの会」	18ｐ－19ｐ
団体紹介⑥「(特活)ハートオブマインド」	20ｐ－21ｐ
編集後記座談会	22ｐ－23ｐ

『OSANPO』について

■ぶらり“お散歩”感覚で、さばえのNPOや市民活動のことが、気軽に楽しくわかる…それが、「OSANPO」のコンセプトです。

■タイトルに隠れた「NPO」(非営利で活動する組織)は、実は身近な存在で、その気になれば、今すぐ、誰でも参加することができます。…そう、まるで“お散歩”のように☆…

◆巻頭特集◆

サバフェス

期間集中&集合体型 地域イベントの明日はどっちだ!!

▲朝方の雨もやみ、大いに賑わった9月13日(日)の西山公園会場

サバフェス

開催団体…焼き鳥合衆国実行委員会(火の鳥会)／さばえ秋HANABI運営委員会／CAVA SABAさばえクラフトマーケット実行委員会／(特活)さばえNPOサポート／誠市実行委員会／ご縁市運営委員会／鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会／(一社)福井県眼鏡協会／鯖江市文化課

日時…平成27年9月12日(土)～14日(月)

場所…西山公園／めがね会館／本山誠照寺／本町2丁目商店街／鯖江市まなべの館／日野川河川敷有定橋付近

※各催しものごとの開催組織と場所です

『個性的イベントの集合体』

昨年に続き、2回目の開催となったサバフェス。西山公園や本町エリア、まなべの館などを舞台に、様々なイベントが開催されました。

たくさんのお客さんが訪れ、大いに賑わった"フェス"ですが、その特徴は目的もターゲットも多種多様な個別イベントが、集中した日程で実施され、地域全体を盛り上げた点でしょう。

サバフェスとして全体の取りまとめは、(一社)鯖江観光協会が担当。

イベントごとの企画・運営も、官民様々で、「期間」と「地域」の共通性以外は"緩やかな連携"で成り立っていました。

『ジレンマを逆手に?』

市民活動の『イベントあるある』でよく聞くのが、「他の団体のイベントと開催日が重なっちゃった!」て話。

実際、時間がカブってしまうと参加できるのはひとつだけ。

「ホントはアッチのイベントに行きたかったけど、先にコッチのイベントから声かけられちゃったからなぁ～」

…みたいなジレンマ、あなたも経験ありませんか?

少なくともサバフェスでは、同じ期間内に実施されるイベント情報を同じテーブルで紹介することで、参加者に『選択肢』を知ってもらう効果があります。

また、他のイベント目的で来場した参加者が、"ついで"に立ち寄ってくれれば、それまで接点のなかった世代や価値観の人に、それぞれの事業の魅力や目的を知ってもらえるチャンスにもなるでしょう。

▲「焼き鳥合衆国」での長蛇の列!
やはり"食べ物"の魅力は強い☆

『ポイントは"自由度"』

ある意味、緻密に練り込まれたイベントではあり得ない『緩やかさ』が、サバフェスのような企画の核なのかもしれません。

完成度や内容の充実度は、個別のイベントで追求しつつ、全体での時間の使い方は、お客さんが自分の気持ちで選んでいける。

それぞれのイベントが『魅力』を持っていれば、『ひやかし』でも『なんとなく』でも、ふらりと顔を出してもらえるくらいがちょうどいい。

そんな自由な時間の中で、参加する人が心から楽しみ、新しい興味を見つけられるような『イベントのテーマパーク』が、サバフェスの姿であってほしい。そんなふうに思います。

『多様性とバランスと』

鯖江という地域には、本当にたくさんの『魅力』があります。

それをそのままブランドとして発信するためにも、多様な『魅力』を活かした企画は大切に違いありません。

ただ、あまりにバラけてしまうと、今度は『地域ブランド』が見えなくなってしまう…

その『個』と『全体』のバランスは繊細で、その時々で柔軟に支点を動かしながら、関係者全体で探り続けることが大切なのでしょう。

また、イベントが集中するために、「スタッフが足りなくなった」とか、「お客さんの取り合いになっているんじゃ?」…との声も耳にしました。

今後のサバフェスのあり方は固まっていない部分も多いのでしょうが、開催資金の調達なども含め、『課題のクリア』&『経験の積み上げ』で見えてくる『将来』もありそうです。

実は、西山公園の「さばえNPOまつり」で実施した『リアル型脱出ゲーム』の参加者は、半数以上が市外・県外の方でした。

せっかく鯖江の『魅力』が詰まったサバフェス。その可能性に目を向けながら、地域の中だけでなく、地域の外へのアピールも、ひとつの鍵になるのかもしれませんね。

◀クラウドファンディング(インターネットによる寄付募集)も活用した「さばえ秋HANABI」

平成27年度「サバフェス」での開催イベント一覧

- 焼き鳥合衆国
- CAVA SABA さばえクラフトマーケット
- めがねフェス
- 誠市
- ご縁市
- さばえNPOまつり
- さばえ秋HANABI
- シンポジウム アニメーション王国さばえ
- ナイトシアター+ ナイトミュージアム
- 鯖江市 地域活性化プランコンテスト 公開プレゼン

皆様ご存じ。「近松座」でござ～い!!

▶▼『旗揚げ十周年記念文楽公演』より

江戸時代の作家、近松門左衛門。最近では、その作品だけでなく、本人を主人公にしたドラマなども作られています。

幼少の頃を鯖江の地(吉江藩)で過ごしたと伝えられ、その縁で旗揚げされたのが『鯖江人形浄瑠璃「近松座」』です。

2015年で設立10周年を迎えた『近松座』。座長の大橋さんと大夫の南さんに、これまでの苦労話や今後について伺いました。

鯖江人形浄瑠璃「近松座」

まちづくり　教育　文化

『立待と近松』

単に近松門左衛門の故郷と言うだけで始められたと思われがちですが、立ち上げるまでに10年あまり費やしたと聞かされると、それまでの努力には計り知れないものがあっただろうと容易に想像出来ます。

地区で毎年行われる『たちまち「近松まつり」』で「近松に関わる何かが出来ないか」とスタートし、落ち着いた先が人形浄瑠璃だったそうです。

とは言え、何もかもが未経験。

滋賀県長浜市にある富田(とんだ)地区(戸数24)で150年の歴史を持つ『富田人形共遊団』の方に指導をお願いすることになりました。

浄瑠璃の人形も借り受け、どうにか予算の目処もつき、仲間も20名くらい揃い、やっとの思いで立ち上がった『近松座』。ここから、週に二回の練習を重ねる月日が始まりました。

また、練習と並行して人形制作や舞台作りなどにも力を注ぎ、気がつけば大変な思いをしながらのこの10年。

その間の苦労を思い出し、目を潤ませる大橋座長の姿が、なんとも印象的でした。

一方の南さん。

最初は誘われて『近松座』の公演を見に来たのがご縁で、全くの素人から"語り"の世界に飛び込んだそうです。

何年もの研鑽を積んだ結果、その喜怒哀楽の表現力は評価も高く、今では一座を代表する大夫となりました。

▶『情』を込めて"語る"大夫の南和彦さん

『江戸時代からの総合芸術』

ここで『人形浄瑠璃』について少し説明しましょう。

『人形浄瑠璃』は『文楽』とも呼ばれ、義太夫(ぎだゆう)節の『浄瑠璃』を語るのに合わせ人形を操る演劇で、日本の近世に完成した伝統芸能のひとつです。

『浄瑠璃』は、三味線を伴奏とする音曲のひとつですが、『詞』に劇中の登場人物のセリフや仕草などが織り込まれ、それ自体が『音楽』でくくりきれない表現性を持つことから『語り物(かたりもの)』とも呼ばれます。

主な役回りには**人形遣い**、**三味線**、**大夫**があり、一体の人形は三人の人形遣いによって命を吹き込まれます。

操られる人形は、三人の呼吸がぴたりと合わなければならず、練習も全員が揃わないと出来ない等、苦労が多いそうです。

『そして記念公演へ』

不断の練習を重ねて少しずつ腕を磨き、長い歴史を持つ『人形浄瑠璃』という文化を、ひとりひとりが体に染み込ませるようにして迎えた、2015年11月1日(日)。

旗揚げ10周年記念公演が、鯖江市文化センターで開催されました。

イベントは10年を振り返る映像で始まり、今まで交流のあった『たちまち子ども文楽』『(特活)かわだ夢グリーン』『知立山車文楽・山町人形連』それに、立ち上げの時からお世話になった『富田人形共遊団』の公演が次々と行われます。

そして最後に『近松座』が登場。

迫真の『傾城恋飛脚　新口村の段』が演じられ、多くの観客の盛大な拍手の中、幕を閉じました。

記念公演終了後の大橋座長は、「とにかくほっとした」と安堵の表情。

10年の節目の熱気を糧に、座員の皆さんそれぞれの今後の成長を思い、楽しみと期待に胸を膨らませているようでした。

▲記念公演の舞台で挨拶する座長の大橋國利さん

『身近にある"伝統"』

最後に今後の活動を伺うと、演じる『外題(げだい＝演目)』を増やしたいとのこと。

現在は4つですが、人情ものだけでなく、賑やかな演目にも挑戦したい。そのためにも、座員を常に募集中だそうです。

歴史の深い伝統芸能は、ややもすると「敷居が高い」と感じてしまうこともありますが、本来、エンターテイメントとしての側面を持っているものです。

時代背景や表現方法が違っても、登場人物や物語の背景に流れる『情』や『思い』は、現代の私たちにもしっかりと伝わってきます。

地元の人々が演じ、育ててきたことで、"伝統"に身近に触れられるのも、また貴重です。

きっと、私たちの地域全体に、目に見える以上の文化的な財産をもたらしてくれているに違いありません。

『近松座』は年に11回程度の公演を中心に、精力的に活動中。鯖江市やその近くに住んでいれば、観る機会もたくさんあると思います。

ご覧になって興味を持ったり、話を聞きたいと思った方は、気軽に門を叩いて欲しいとのこと。

もし公演のお知らせを目にしたら、まずは是非会場まで足を運んで、『近松』と『近松座』の世界に浸ってみてはいかがでしょうか?

基本データ

〒916-0005 鯖江市杉本町702-2
立待公民館内
TEL:0778-51-3376(立待公民館)
FAX:0778-51-8416(立待公民館)
http://chikamatsuza.sub.jp/
SC-CC-Tachimachi@city.sabae.fukui.jp
(立待公民館)

正会員募集中!

- 代 表 者…大橋 國利
- 活動開始…2005年4月
- 正会員数…17名(2015年4月現在)
- 賛助会員…なし

ボランティア募集中!

◎活動目的

近松門左衛門のふるさと"さばえ"を広くPRするため、人形浄瑠璃を通して、近松の『情』を表現しています。

『感情』ヌキで話しましょうネ

『ボランティアまつり2015』での音訳体験コーナー（平成27年10月）▼
写真提供：音訳ボランティア くさぶえ

▲『広報さばえ』録音中！
写真提供：音訳ボランティア くさぶえ

▲勉強会では講師から厳しい指導がとぶことも
写真提供：音訳ボランティア くさぶえ

音訳（おんやく）ボランティア くさぶえ

教育　福祉　文化

『音訳』とは、視覚に障害を持つ方のために、冊子や書籍などを含めた様々な文字情報を"音声化"すること。
25年以上の実績をもつ『音訳ボランティア くさぶえ』は、現在アイアイ鯖江（健康福祉センター）を拠点に活動しています。
今回、会にまつわるお話を、メンバーの木下千鶴子さんと八田香代さんのお二人にお聞きしました。

『文字 ↓ 声』

平成元年に発足した『くさぶえ』。現在のメンバーは17人です。

主な活動内容は、『広報さばえ』や『さばえ社協だより』の音訳が中心ですが、月一回、必ず講師を招いて勉強会を開き、スキルの向上に励んでいます。

また『社会福祉協議会』が中心になって開催する『ボランティアまつり』などで、一般の参加者の方に『音訳』を体験してもらうなど、市民の皆さんに会の姿を広く知ってもらうための活動も行っています。

たとえば、毎月届けられる『広報さばえ』…あなたは隅々まで目を通していますか？

手に取るとわかりますが、これがナカナカの情報量です。

定期的に音訳するためのスケジュールは、大体こんな感じだとか。

- 毎月25日に原稿が到着
- 各メンバーに担当部分を割当て
- 30日くらいまでの4、5日間で事前練習＋吹き込み
- 120分のカセットテープ2本分としてマスターテープが完成
- テープをダビング
- 希望者の方に発送
- 後日、利用者の方から返送

これだけでも、かなりの作業だとわかりますが、実際に1本のテープを作って皆さんにお届けするためには、タイトルを点字で作成することなども含めると、約30もの工程があるそうです。

『"朗読"ではありません』

「音訳って、普段の"お喋り"なんかとは全然違うんですよ。」と木下さん。

「間違った情報を伝えるわけにはいかないから、読み方や伝え方がわからないことは徹底的に調べます。

それと、特に行政の刊行物などの場合は、物語を読む"朗読"とは正反対で絶対に『感情』をこめてはいけない。

そこが難しいんですよね。」

なるほど。

確かに、口から出る『言葉』には、文字の意味以外にも、抑揚や、音の高さや、大きさや…そんな『感情』の要素がたくさん混じり合っているものです。

情報に"色"を付けないために細心の注意を払っていたなんて、今回の取材で初めて知った驚きでした。

「グラフや写真も、できる限り正確に伝わるよう言葉で説明します。

発音にも気を配っていて、日常使う【全国】は『ぜんごく』ではなく『ぜんこく』、【情報政策課】は『じょうほうせいさっか』ではなく『じょうほうせいさくか』と正しく言わないといけません。

あと、文章は忠実に伝えないといけないから、誤字があっても、そのまま読むんですよ。」

ユーモアを交えてのお話でしたが、『音訳』の奥の深さを思い知らされました。

『続けてこれたのは』

「以前、テープが戻ってきた時に、利用者の方のお礼の言葉が録音されていたことがあったんですね。

そういうことがあると本当にうれしくて、すごく励みになるんですよ。」

八田さんも、目を細めて話してくれます。

◀八田さん（左）と　▼木下さん（下）

「活動を通じて様々な人と知り合えるし、つながりが広がることでいろんな勉強にもなります。

作業は大変だけど、やり終えた時の達成感も大きいです。

実は、苦労して作ったマスターテープを、編集中に消してしまったことがあって、結局イチから作り直したんだけど…

そんな大変な時でも、三十代の若いメンバーから、ベテランの人たちまでみんなで支え合いながら、楽しくやっていけている。

それが活動を続けていられる理由ですよね、きっと。」

にこやかに話す八田さんと、笑顔でうなづく木下さんのやり取りが、会全体の雰囲気も伝えてくれているようでした。

『仲間募集!!』

諸先輩の活動により『くさぶえ』はたくさん表彰も受けています。

そんな先輩方のレベルに追いつきたいと抱負を語ってくれたお二人。

発送する媒体を、カセットテープからCDに替えるため、最近新しい機材の準備も整いました。その扱いに早く慣れることも今の目標だそうです。

▼CD化のため導入した新機材
今後はパソコンでのデジタル編集もスタート！

「社会の役に立ちたい」という理由とともに、趣味や生きがいを見つけようと入会される方も多いとか。

今後も、PR活動は積極的に行っていくそうなので、お目にかかる（お耳にかかる）チャンスがあったら、ぜひ一度体験してみてください。

さぁ、あなたも一緒に『音訳』始めませんか？

※『くさぶえ』が吹き込んだ「広報さばえ音訳版」は鯖江市のホームページからも聴くことができます。（『広報さばえ』のページから「音訳版」をクリック！）

❀　❀　❀

基本データ

〒916-0022 鯖江市水落町2-30-1
アイアイ鯖江（健康福祉センター）内
TEL：0778-51-0091（鯖江市社会福祉協議会）
FAX：0778-51-8079（鯖江市社会福祉協議会）
http://www.sabae-shakyo.or.jp/
（鯖江市社会福祉協議会）

- 代表者…木下 千鶴子
- 活動開始…1989年
- 会員数…17名（2016年1月現在）

ボランティア会員募集中！

◎活動目的
音訳活動を通じて、視覚障がい者の福祉向上、並びに、音訳表現技術の向上を目指しています。

ボクらも社会の一員ニャンだワン。

▼『譲渡会』での新しい出会いを待つワンちゃんたち
写真提供：（一社）ふくい動物愛護管理支援センター協会

一般社団法人
ふくい動物愛護管理支援センター協会

まちづくり　環境　教育　福祉　文化

少しばかり長い名前ですが、動物に関して、昔は保健所が行っていたような仕事を、行政から委託されて活動している団体です。ペットたちは、人間社会で必要不可欠なパートナーになった一方、現代社会の問題点も映し出すようになっているようです。

「先日、うちから京都までもらわれていった子がいるんですよ（笑）」

弾むように明るい笑顔で話のスタートを切ったのは、事務局長の森中和人さん。

もちろん「子」というのは、保護されてから団体で世話をし、一般家庭の"新しい家族"として引き取られたペットくんのことです。

『"野良猫"は存在しない？』

――坪田さんも丹南の責任者として、犬や猫の保護をされてるんですよね？

坪田　最近は、野良とおぼしき動物たちが街を歩いていると「引き取って欲しい」とすぐに連絡くださるんです。そんな時は、まず現地に出向いて、連絡をくださった方とお話をします。

――電話で済む内容でもですか？

坪田　はい、行きます！

たとえば猫の場合ですけど…"野良猫"というか"野生猫"はいないんです。

――???

坪田　基本的に、猫は餌のない所には棲まないんですよ。（笑）

大体は、地域のどなたかが餌をあげているとか、暮らすのにいい環境だからそこにいるわけです。なので、まずは現地の状況を見るのが基本ですね。

見かけた人が"野良猫"や"迷い猫"だと思って連絡をくれた場合、安易に保護してしまうと問題が生じることもあります。もしその猫が、散歩中の"飼い猫"だったら、保護すると飼い主の所に戻れなくなってしまう。

それに、よほど特殊な場合でなければ猫は迷子にはならないですから。

――へぇ、そうなんだ。

坪田　飼い主も、猫の性質を知っていれば1日2日帰って来なくても、さほど気に留めなかったり…

あと「猫は死ぬ前に姿を消す」って聞くでしょ？　そう思って探すことを諦めたり…なんて場合もありますね。

そして残念なことに、猫の場合、保護しても飼い主のもとに戻るのは非常に稀なんです。猫の返還率は0．03％なんですよ。

そうなると、どの選択がいいのか安易に決められないでしょ？

連絡を受けたらまず現地に行き、話をして理解していただく。そして協力してもらったり助けてもらうわけです。

自分たちも一緒になって、少しでも猫の幸せになるよう努力してます。

▲事務局長の森中さん（左）　代表の小西さん（中）　丹南責任者の坪田さん（右）

『動物と人とのつながり』

――保護した犬や猫の新しい飼い主を探す『譲渡会』もされてますね。

森中　現在、幸いなことに、嶺北での殺処分はゼロ件です。タイミング的に『譲渡会』や、適正飼養（てきせいしよう）の『勉強会』とかの効果が形となって現れているんでしょうね。

坪田　うちの場合、保護した犬や猫にそれぞれの子たちに合った、きめ細やかなケアを心がけています。

過去に危険な経験をしていると、人との新しい絆を結ぶ準備が出来ていない場合もありますから。

人間の方も、新しい家族を受け入れる準備と覚悟があるかが問われます。

『譲渡会』では、まずマッチングをして、犬なら新しい飼い主と、半月ほど一緒に散歩をしてもらい、お互いに慣れてからお渡しします。

――そこまでサポートしてもらえると人も動物も安心ですよね。県外からも「福井で育った子がほしい」と連絡が来るのもわかります。

森中　結果的に、その子ちたが福井のPRをしてくれてる感じかな。（笑）

『人と人とのつながり』

――"野生猫"の話ですけど、それが迷惑だと思ってる方もいますよね。

森中　そう。動物が好きな人ばかりではない。必ず嫌いな人もいます。だからこそ、地域全体で、その現状や課題を共有するべきだと思うんです。私たちが目にしているのは『命のドラマ』だし『命の課題』なんだと。反対する人たちも含めて一方通行ではなく「どうあるべきか」を考える…できればそれを、この鯖江から発信して、人と動物の共存する「やすらぎの街・美しく安全安心な街」のモデル地区にしていきたい。

…そんなふうにも思ってますよ。

目を輝かせながら、そう締めくくった森中さん。

もしかすると『動物と人との課題』は、動物と人間社会…いや、その社会を作ってきた『人と人のつながりに潜む課題』を、鏡のように映し出しているのかもしれません。

今、福井県の嶺北で殺処分がゼロなのも、譲渡会や啓発活動だけでなく、会のスタッフの皆さんが地域に顔を出し、住民の方々と解決策を模索してきた結果なのではないでしょうか。

きっと、『ふくい動物愛護管理支援センター協会』が目指しているのは、そんな社会の姿なのでしょう。

取材中、森中さんが、優しい目で、ぼそっと口にしたひとこと…

「将来は、いま僕らがしてるような仕事は、なくなる方がいいんだよね。」

…とっても深い言葉でした。

基本データ

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20
鯖江市民活動交流センター内
TEL：0778-42-6018
http://www015.upp.so-net.ne.jp/e-fapsc/
info-fapsc@plum-plala.or.jp

●代 表 者…小西 伴彦
●活動開始…2009年11月24日
●活動協力者…54名（2016年3月現在）

ボランティア募集中！

◎活動目的

地域における動物ペットの適正飼養、ペットの保護等に関連し、人と動物が共生できる社会の実現に向け活動しています。

あなたも動物愛護推進宣言者になろう!!

ふくい動物愛護管理支援センター協会では『どうぶつ愛護推進宣言』を提唱し、宣言者を増やすキャンペーンも実施中。

私もなります。ステッカーください!!（笑）

『宣言者』になるともらえる可愛いステッカー

■動物愛護推進宣言者とは■

★1．動物の命を大切にしたいと思う人
★2．自ら飼っているペットに対して、適正な飼養をする人
★3．人とペットが共生できる社会にしたいと思う人
★4．自分の身の回りでの動物の適正飼養をアドバイスをできる人
★5．動物が嫌いな人でも、安心で、美しい街づくりをしたい人

5項目について、一つでも当てはまる人は動物愛護推進宣言者である。

N・P・Oのひとびと
―第1回―
認定特定非営利活動法人 日本NPOセンターの巻

▲左から、平川さん、西口さん、山本さん
写真提供：認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター

認定特定非営利活動法人
日本NPOセンター 事務局
〒100-0004 東京都千代田区
大手町2-2-1　新大手町ビル245
TEL:03-3510-0855
FAX:03-3510-0856
http://www.jnpoc.ne.jp/

新企画『N・P・Oのひとびと』。鯖江を飛び出して日本中、いや世界中のNPOに突撃取材！　「そこではいったい、どんな人たちが、どんな思いで活動しているのか」に迫るインタビュー企画です。
記念すべき第1回は、事業などで我が『さばえNPOサポート』とも関わりの深い『認定NPO法人 日本NPOセンター』を訪問！
約20名の事務局スタッフの方々のうち、震災部門スタッフ西口徹さん、同じく山本朝美さん、企画部門スタッフ平川ちひろさんのお三方に、お話をお聞きしました。

『しくみを変えたい！』

――最初からNPOに勤めようって思っていたんですか？

平川　大学院の2年目に日本NPOセンターの求人サイトの『しくみを変える』という言葉が目に入って、そのしくみを変える方法、企業や行政と連携して変えていくということが刺激的だったんですよ。
それで、タイミングも重なったのと、『ご縁』も感じて入職しました。
『しくみを変える』は言葉で安易に語れないなと最近実感しています。
変えたいと思っても簡単に変えられるものじゃないですし、いろんな人と議論対話を繰り返しながらも思い通りにならないというか歯がゆいというか。
私が「こうしたい」と思ってもならないし、いろんな人の思いがあってぜんぜん思うようにいかなくて。しくみはなかなか変わらないんだなと、あたりまえですが痛感しています。

『やってみよう!!』

――じゃあ山本さんは？

山本　自分の中では三段階あるなって思っているんです。気になることはなんでもやってみようというタイプなんですけど、斜に構えていたというか、気になっていてもできなかったのが高校時代で、大学に入った時に「気になっているんだったらボランティアサークルに入ってやってみよう」と思い、入ってみたらハマってしまった。

――どんなボランティアサークルだったんですか？

山本　"貧しい人たち"のために海外に行って家を建てる支援をしているNGOだったんですが、どっぷりハマってしまって。
それが一段階目だったと思うんですけど、「支援するといってもその貧しいとされてる人たちのことをよく知らないな」と思い、「じゃあ、実際はどうなっているんだろう、向き合ってみよう」と思ってフィリピンに留学することを決めたのが第二段階で。
フィリピンは、国がなかなか"しっかりしていない"というのもあると思いますが、『人々の力で社会を変える』という歴史も持っていて、市民の力の働きというものを実感してきました。
そのあとは就職をして転職の時期をむかえた時に、これが第三段階だと思うんですけど、NPO職員とかNGO職員とか気になっていて、それこそまたちょっと距離を置いていたんですが、「やってみよう」と思って。
市民社会というキーワードを考えたり関わったりする場としては、最適だったかなと感じています。

『やってられるか！』

西口　僕は団塊の世代なんで、学生の頃、原水爆禁止運動があったり、多くの学生同様、人権問題や同和問題に関心があったりしました。
就職した会社の広報部門にいた時に、『社会貢献室』ができてその担当になって。それが阪神淡路大震災の前の年で、翌年の震災後、社会的にボランティアが注目されるようになって、それからNPOの人たちとの付き合いが始まりました。
定年後は西東京市の『市民協働推進センター』のセンター長を2年半やりました。ここは社会福祉協議会が引き受けた公設民営のNPO支援センターなんですが、社協が受けた場合は安定感もあるし信頼性も高いと思いますが、財政的にも人脈的にも行政の下部組織的な従属傾向が強いから、場合によってはしばりだとか、行政の考え方に反対する市民活動に対する自由度が欠けるとか、そういうので「やってられるか！」と。2年半で疲労感がたまってきて「やーめた」と。
それで2、3か月もすると米櫃の底も尽きてきて、救いの手を差し伸べていただいたのが、日本NPOセンターでちょうど丸3年というところです。

『SAVE JAPAN プロジェクト』

平川　私がSAVE JAPANプロジェクトに関わって5年になります。
私たち日本NPOセンターの事業は、地域のNPO支援センターと連携して行う事も多く、地域の実情や地域のNPO支援センターと関係を構築していくことをすごく大事にしているんですけど、この事業を通じて地域のNPO支援センターと深くかかわる中で、自分のものの見方が本当に狭いことを痛感しました。
きっとこんなことで困っているんだろうと思っていたことがことごとく覆されて、「ああ、こんなことで困っていたんだ」「じゃあ、それに対して私たちはどんな支援ができるのだろう」と常に考えさせられる事業だと感じています。

西口　イメージしていた現場と、実際足で行ってみた現場は違うということでしょ。

平川　そうですね。現場感覚って大事なんだなと実感しています。今後は、その現場感覚が自分目線にならないようにみなさんに伝えていけるようにしたいなと思っています。
各地域の問題点をお聞きしていっしょに考えながらその問題点を解決できるよう動いていただくというのがたいへんなんですが、私たちの立ち位置は、「この事業をやってください」というのではなくて、地域の支援センターと環境団体が「この事業をしたい」と手を挙げたことに対して「じゃあ、いっしょにやりましょう」というのを重視しています。「こうしてください、あしてください」だと、お互いの視野を狭めてしまいそうですしね。

『人間のこと』

山本　今関わっているのが東日本大震災の支援の事業になるんですが、被災されて全国に居を移されている方たちと関わる中で、社会のしくみについても考えさせられますし、人間の生き方そのものや、選択して主体的に生きることの難しさに直面することが多いですね。
私たちの事業は基本的にはNPOの組織基盤の強化のお手伝いというのがメインテーマになるんですけれども、そういうことを通して、社会のあり方とか人の暮らしのあり方を考えさせられています。
今思い返すとNPOに就職しようと思ったのは、震災当時、前職の仕事をしていた時には何もできなくて、術を探そうと思ったらたくさんあったのに動けなかった自分もいて、まわりにも同じような人たちがいて何か一歩を踏み出したいという思いもあって。
今直接被災地に関わることができている、被災された方たちに関わることができているのを考えると、大事に仕事しなきゃなと思います。

――フィリピンへ行ったこととの繋がりは感じますか？

山本　国は違えど社会とか国家とか人とか家族とかって共通しているんだなと思いました。
生活を自分でどう守るか、家族をどう守るか、家族とどう暮らしたいかというのも、フィリピンも日本もみんな同じだなと思います。
日本NPOセンターでも、『地域と国際』というキーワードで『ローカル』とか『グローバル』で分けられていた問題がかなり共通しているという議論をしていて、『人間のこと』ということでも繋がりますし、そういう意味では組織としてもそういう方向に行っているのかなと思います。

『活動の原動力！』

西口　私たちの震災部門は、東日本大震災直後に様々な現地ＮＰＯの応援基金というのがスタートしたんですが、いろんな企業が冠スポンサーになってくださって人材の育成、プロジェクトの推進などの面から現地のＮＰＯの支援をしています。

助成金を出して報告書をいただくだけではなくて『伴走型』と言いますか、一緒に手を携えて支援していくと。

年に数回訪問したり、助成を受けているＮＰＯ同士で集まって現在の状況をお聞きしたり成果の発表会を行ったりとか、きめの細かい活動を行っています。

ひとりおよそ２０数団体受け持っていて、現地のＮＰＯと手を携えてという姿勢が、私としてはいいなと思っています。

――それはすごいですね。ひとりでそんなに受け持っているんですか。

山本　年中、誰か東北新幹線に乗っています。

西口　僕も今日、午後７時２０分の新幹線で盛岡へ行きます。

――今日ですか？　そんなお忙しい時にありがとうございます。お話をお聞きしていると、どうしてそこまでできるのだろうって率直なところ思ったんですが。

平川　ＳＡＶＥ　ＪＡＰＡＮプロジェクトにしても「寄り添いながら」とは言いつつも、各地域の支援センターと事業の企画や環境団体との話し合いにまで参加しているわけではないので、事業を行うのにたいへんな思いをされているのを知りながらも、私は関わっているようで関われていないんじゃないかなと感じています。

４７の地域の方と電話やメールでやりとりをしているのと、実際に現場で考えるのとはぜんぜん違いますよね。

西口　地域の支援センターでも、利用されている団体間での交流会や情報交換会のような、繋がるための活動をするじゃないですか。我々の事業もそういったようなものなんですよ。

山本　忙しいといえば忙しいんですけど、できることも役割も限られていますし、現場の方々が頑張っている姿を見させてもらっている分、私たちも負けないようにやんなきゃ。いっしょにやらせていただく以上は同じくらい、それ以上に頑張らないと。

西口　時々疲れが出ている時もあるんですよ。

山本　西口さんは６０代後半なんですけど、すごく動いているというか一番動いているぐらい。

平川　頑張っている人を見ると「負けてられん！」ていう気になりますね。「もういいや、負けちゃおう」という時ももちろんありますが、頑張っている人の姿を見ると励まされます。

――定年までお仕事をされてそこからＮＰＯに関わっているんですもんね。

西口　米櫃の底が尽きたんでね。

山本　人間としての生き方もあるのかなと生意気にも思っていて、仕事というよりも生き方としてされているのかなと思います。

ここにいさせてもらっていることもあって、いろんなＮＰＯの先達にお会いしますが、そういう姿を見ているとあこがれるというか、まだまだパワーがあるというか。

――いいですね。あこがれの存在が身近にいるっていうのは。

西口　いやいや、そんなことないですよ。若い人からはね、『ラ・フランス』って言われているんですよ。

――『ラ・フランス』？

…『洋梨』…『ようナシ』!?

平川　言ってないです！

――お互いに刺激しあっているんですね。そういうのがないとＮＰＯの活動はできないなって思いますね。

平川　原動力ですね。

私は、人から刺激をもらいますが、ネガティブな事件が多い中、苦しんでいる人がいると想像すると、「今私はここでくじけちゃならねえっ」と怒りの感情がわいてきちゃって。

――きっとＮＰＯの活動をされる方というのは、感じるのが強いというか、感じて動けるというか、そういう方たちが多いんじゃないかと思います。

山本　先日、「痛みと憤りがＮＰＯの原動力だ」というお話を聞いて、職員たちも共感していたところです。

西口　一ヶ月ぐらい前だっけね、代表理事を務めた４名の方々からご意見を伺おうかと。その時に印象に残る言葉をいただきました。

平川　『寄り添う』という言葉もキーワードとして言われてましたね。私はその言葉が印象的でした。

――ちょうど一時間になりました。お時間とか大丈夫ですか。

山本　すいません。ざっくばらん過ぎました。

――いえいえ、こういうお話が聞きたかったんです。

平川　私も用意していなくて、ごめんなさい。

山本　第一回目の責任が果たせるか心配です。

平川　もっとインパクトのある話を用意しておけばよかった。

――大丈夫です。ダメだったら、二回目が無いだけです。（笑）

❀　❀　❀

みんながそれぞれの思いを形にしていくのを、寄り添いながら支援していくことで自分たちの思いを形にしていく。そんな中でスタッフどうしで日々切磋琢磨しながら自分の生き方を見い出したり、より高めていったりしている。

短い時間でしたが、お三方とのお話の中でそんなことを感じさせられました。

チラシ&ポスターで振り返る

さばえNPOサポートの平成27年度

■この冊子を発行している『さばえNPOサポート』は、今年度もいろいろな事業や活動をしてきました。その記録を、チラシやポスターで振り返ります。

〈みらい塾2015〉（親子体験企画）
【2015. 5. 9(土)】「たけのこほり体験」
【2015. 7. 18(土)】「もきたて夏野菜でカレーづくり」
【2015. 10. 31(土)】「秋のみのりでもの作り」
【2016. 1. 24(日)】「きねとうすでおもちつき」

【2015. 6. 13(土)/7. 4(土)/8. 8(土)】（全3回）
〈SAVE JAPAN プロジェクト2015〉

〈市民まちづくり応援団養成講座〉（提案型市民主役事業）
【2016. 1. 27(水)～】吉川地区　／【2016. 1. 21(木)～】片上地区

【2015. 9. 13(日)】〈さばえNPOまつり〉／
〈リアル型脱出ゲーム「秘宝の迷宮から脱出せよ!!」〉

■さばえNPOサポートでは、ここでご紹介した以外にもたくさんの事業に関わってきました。今後とも、ぜひ応援をお願い致します!!

SABAE NPO SUPPORT
SABAE NPO SUPPORT
SABAE NPO SUPPORT

【2016. 3. 13(日)】
〈ハピー使い切りバザール〉

【2016. 2. 28(日)】
〈マイナンバー制度勉強会〉

【2016. 2. 19(金)】
〈プレゼンテーション能力向上講座〉

▼まちなかの一角に鎮座する『橋地蔵』の石仏たち

歴史とまちづくりバランスの妙

地蔵橋保存会（じぞうばし ほぞんかい）

まちづくり　教育　文化　その他

時は戦国時代。織田信長が越前朝倉氏を攻め落とそうと進軍する中で『地蔵橋』の伝説が生まれました。四百年以上の歴史を刻んだ石仏を守り、地域で活動を続けているのが『地蔵橋保存会』。今、お地蔵さまは、地域の繋がりの『要（かなめ）』にもなっているとか。

『信長にうち捨てられ橋となった石仏たち』

西山公園から公園口商店街へと向かう坂、その下には小さなお堂があります。

『橋地蔵』と呼ばれる寝姿のお地蔵さまが有形文化財として安置されており、それを保存・継承しているのが、地元の『地蔵橋保存会』の皆さん。

お地蔵さまの顔や体を見ると、不思議なことにあちこち磨り減っていて、まるで道の敷石のよう。

それには、こんな云い伝えが残されています。

『約四百年前、織田信長が一乗谷の朝倉氏を攻めた時、現在の西山長泉寺町辺りにあった鯖江の長泉寺三十六坊を焼き払い、多くの石仏は谷や川に投げ捨てられた。（一説には、長泉寺を守るために落とされた橋の代わりに、信長が石地蔵を橋にしたとも。）

後年、長泉寺の僧が「わが体を踏ませて、通る衆生（しゅじょう）に功徳を与えん」と、放置されている地蔵尊より夢のお告げを受け、北陸道の小川の橋にした。』※なお、現在の場所には平成7年の道路新設の際に移動。

『二大行事』

会が行っている毎年恒例の行事は、8月24日の地蔵盆にある『地蔵まつり』と、11月3日の『人形供養』。

どちらも、お堂前の地蔵橋公園にて実施されています。

夏の地蔵まつりの主役は子供たち。お菓子やお花などのお供え物を並べ大人と一緒に読経に耳を傾けます。

夕暮れの広場には、昔ながらの『輪投げ』や『スーパーボールすくい』も並び、いつの時代も変わらぬ笑顔が溢れています。

もうひとつ、秋に行われる人形供養は、平成27年に21回目を迎え、朝9時30分の受付開始とともに、市内外から多くの人が訪れます。

思い出の詰まったぬいぐるみや日本人形等は、毎年沢山の数が納められ、公園には大きな山が。

▼会の大工さんの手による屋外用の護摩壇（2015年11月3日）

▲供養のため持ち込まれた人形たち
奥には、その何倍ものぬいぐるみも

会の発足当時に『保存会』の大工さんによりしつらえられた護摩壇にて、「学業成就」や「就職祈願」「良縁成就」などを願う護摩木の焚き上げと、供養がともに行われ、一緒に人生の時間を歩んでくれた人形たちに、最後のお別れと感謝の気持ちを伝えます。

また、この日は『保存会』の奥様方による、あったかい『ぜんざい』の振る舞いも行われており、来場する人たちの楽しみのひとつになっています。

お地蔵さまのトレードマークとも言える赤い頭巾と前掛け、こちらも奥様方による手作りとのこと。温もりが感じられ、お地蔵さまがとても大切にされていることが伝わってきました。

『地元の歴史、地元の思い』

地蔵橋保存会は、地域（長泉寺町及び本町4丁目）の方の寄付・協力、人形供養への"おこころざし"などにより運営されています。

現在の会員数は10名、今後は後継者の育成が大切だと、事務局長の酒井さんは言います。

限られた地域の限られたメンバーで伝統を守っていくことの難しさを感じながらも、歴史を大切にする思いが強いため、結果として入会の条件が厳しくなってしまうとのお話も。

ただ、これは裏返せば、地域とその歴史に対する『誇り』や『責任感』の現れなのかもしれません。

地域に根ざした縁や歴史が中心にあるからこそ「自分たちが責任を持ち、大切なものを大切に継承していこう」という思いも生まれてきます。

一方で、大人も子供も男性も女性も一緒になって行事に携わっている様子はとても和やかで、遠方からのお客さんに丁寧に接する姿からも、皆さんのまごころを感じました。

きっと『地蔵橋保存会』の大きな魅力は、地域で歴史を紡いできた"芯の強さ"と、地域にこだわらず人々を受け入れる"ふところの深さ"とが同居しているところなのかもしれません。

お地蔵さまを踏むと災難除けになるとも言われており、（現在は大切に安置されているため、踏んではいけません）パワースポットとしても注目を集めている地蔵橋。

全国紙の新聞や、TVでの紹介もあり、少しずつ知名度も上がってきたそうです。

お地蔵さまのパワーとともに、地域の力強さも感じられるこの場所に、皆さんも是非一度訪れてみてはいかがでしょうか。

▲取材中に笑顔を見せる
事務局長の酒井さん

❀　❀　❀

※今号の表紙も『地蔵まつり』のワンシーンです。
夏の夕暮れ、まちなかに出現した幻想的で懐かしい空間、感じていただけますか？

基本データ

〒916-0026
鯖江市本町4丁目
TEL:0778-51-1918

- 事務局長…酒井 孝佳
- 活動開始…1993年
- 正会員数…10名（2015年10月現在）
- 賛助会員…なし

◎活動目的

橋地蔵尊の保存と継承。『地蔵まつり』『人形供養』などの活動を通し、地域の人たちとの交流もはかっています。

▲1993年の人形供養の様子　写真提供：地蔵橋保存会

▼中学生たちをガイドして『車の道場』へ（2015年10月）　写真提供：鯖江市産業観光ボランティアガイドの会

『産業&観光』これが鯖江流

鯖江市産業観光ボランティアガイドの会

まちづくり　教育　福祉　文化　その他

JR鯖江駅の『鯖江市観光案内所』を訪れたことはありますか？。たくさんのパンフレットが用意されているだけでなく、眼鏡フレームや漆器、リボンなど鯖江の産業に関わるグッズも展示されていて、"地域のショーケース"といった風情です。実は、そこでお客さんに対応しているのは、この会のメンバー。どうりで皆さん、鯖江のことに詳しいわけです☆

『歴史と地元を学ぶ』

お話を伺ったのは、会長の菅谷淑子さん。

会の発足時から「自分自身の歴史の勉強もかねて」と参加されたとか。

――まずは、会の成り立ちと、どんな活動をしているかを教えていただけますか？

菅谷　ご存じの皆さんも多いでしょうけど、平成7年の『世界体操選手権鯖江大会』を機に、鯖江にボランティアの意識が芽生え始めたんですね。その後、鯖江の街を綺麗にしようと、女性有志によって『まちづくり女性の会』ができました。その頃、福井県からも各市町村に観光ガイドを置こうという話があり、鯖江市でもボランティアを募りました。それで『まちづくり女性の会』のメンバーたちも加わって出来あがったのがこの会です。勉強しながら、希望があれば街なかをご案内するということからのスタートでしたね。

今、会員は20人くらいですが、まだ慣れていない人もいるので、マイクを持ってご案内できるのはその半分ほどです。あとの方には一緒に歩いてもらいながら、安全などに気配りをしていただいています。

それと、月に一回、第二火曜日には研修会を行ってます。講師を招いて話をしていただいたり、実際にご案内する現地の視察をしたりしてきました。

――ガイドされるのは市外の方だけですか？

菅谷　いえ、違うんですよ。市内の子ども達にもお話ししに行きますし、市の長寿福祉課の『健康寿命いきいきサロン事業』というのがあってその中でもご案内しています。

実は、参加された方々から「ご本山にこんなに見る所があるのを知らなかった」とか、「萬慶寺の前をいつも通っていたけど、天井絵を見たことなかったよ」と喜びの声をたくさんいただくんです。長年鯖江市に住んでる方でも知らないことが多いんですね。

『"産業"のさきがけ』

菅谷　鯖江の私たちの会の特徴と言えば、やっぱり『産業』が入ってるところなんですよ。気がつかれました？

――あ、確かに『観光ボランティアガイド』って言うのは、よく耳にするけど、鯖江のは『産業観光』だ。

▲並んだ漆器の前で、思いを語る菅谷さん

菅谷　発足当時は、ボランティアガイドの会の名前に『産業』が入っているのが全国的にもとても珍しかったんです。そんなこともあって、平成18年にはある全国誌の依頼で『鯖江の産業と観光のガイド』について寄稿したこともありました。

それから10年近く経って、今は日本全国で体験学習として、産業と観光を併せてガイドするということがとても多くなってきています。

――さきがけだったんですね？

菅谷　もちろん先見の明もあったのでしょうけど、鯖江の場合、特に産業と観光は密接な関係があったからだと思いますよ。

ですからガイドしながら、眼鏡や漆器の国内シェアについてや、なぜそれぞれの産業が鯖江で盛んになったのかについての話もさせていただいてます。

――そうか。今の鯖江の姿ともつながってくるから、他の歴史的な話も身近に感じられる気がします。

『あなたも"ガイド"』

菅谷　ガイド以外にも、講習会の講師をさせていただくこともあります。

――どんな方が対象なんですか？

菅谷　タクシー業界の方とか、商店街の店主の方とか。

実際にお客さんとのやりとりを想定して『ロールプレイング』（役割を想定した疑似体験）みたいなこともするんですよ。

お寺の山門まではご案内するけど、中のご本尊は見たことないというのではちょっと寂しいでしょ？

――ですね。

菅谷　来店されたお客さんに「あの左甚五郎の有名な作品はどこにあるのでしょうか」と聞かれた時に「さぁ…」って答えるわけにはいかないじゃないですか。

例えば、先生方にも、勤めている学校に"ゆかり"のある史跡の知識などは、出来れば知っていてほしいと思うんですよ。

先進的なアイデアや技術も大切。でも、ちゃんと自分たちの育った地域に積み重なった、足もとの歴史も大切にしないとねって。

――市民ひとりひとりが"プチガイド"さん"みたいな話ですね。

確かに、そんな地域コミュニティってステキです。

『思い出をお土産に』

――これからのことついて教えてください。

菅谷　新しい会員さんを、もっと増やしたいです。

活動のことで言えば、とにかく来られたお客さんに「鯖江っていいとこやったよ」と思ってもらえることが一番。そんな思い出をお土産に持って帰ってもらえるガイドを心がけたいです。そのために、毎回毎回が勉強であり、研修ですね。

❀　❀　❀

ガイドと地域への熱い思いを語ってくれた菅谷さん。

我々も、少しずつ"プチガイド"になる修行をしつつ…

「鯖江っていいとこやったよ♪」

そう言ってくださる観光客がひとりでも多くなることを祈っています。

基本データ

〒916-0053 鯖江市日の出町1-2
観光案内所内
TEL：0778-51-2229
FAX：0778-51-2229

●ガイドのお申込みは1週間前までに
●料金は無料（ただし交通費補助として1,000円が必要）

正会員募集中!

●代 表 者…菅谷 淑子
●活動開始…2002年
●正会員数…19名（2016年3月現在）
●賛助会員…なし

◎活動目的

鯖江市の地場産業、観光名所、史跡などのガイドを行い、来鯖の方に、おもてなしの心で鯖江市の宝を知っていただく。

これまでにこんな活動もしています

◆年間30回近くのガイド活動
◆小・中学校への『出前語り部』
◆県内・県外での実地研修をはじめとする、月一回の研修
◆「さばえつつじまつり」「さばえものづくり博覧会」「さばえもみじまつり」への協力
◆「学びバス」（鯖江市長寿福祉課）でのガイド
◆JR鯖江駅『鯖江市観光案内所』の管理運営　など

本物の支援を本物の自信に

▼オリジナル商品「菜の花クッキー」

▼保育園児たちを迎えての芋掘り体験（2015年11月）

▲軽作業部門

▼食品加工部門

▲マスコットキャラクターのマインちゃん

特定非営利活動法人
ハートオブマインド

教育 福祉 文化 その他

NPO法人『ハートオブマインド』は平成24年に設立され、障がい者の自立・就労を支援しています。（就労継続支援A型事業所）理事長の山田さんは、優しく飄々とした雰囲気ながら、深い信念もお持ちの様子。

「本当の意味の『自立』って何だろう？」

…そんなことを考えさせられる、印象的な取材となりました。

『想定を超えるニーズ』

『ハートオブマインド』は、いくつもの事業部門を持ち、障がいを持つ方を『雇用』しています。

「食品加工」「IT」「印刷」「軽作業」「営農」と言った各部門で、給料をもらいながらスキルと自信を身につけ、将来的には一般企業に就職することを目指します。

発足時には10名の定員でスタートしましたが、「もっと受け入れてもらえないか」との強い要望があちこちから上がり、1ヶ月後には、倍の20名の定員の認可申請を行うことに。

その後、より広い拠点に移るなどしながら、現在では40名を超える社員が働いています。

また、立ち上げ時には、知的障がいを持つ方を対象に考えていましたが、精神、身体の障がいを持つ方からのニーズも予想以上に多かったため、その全てを受け入れる団体となりました。

山田さんいわく、

「地域で障がいを持っている方の数は一般の皆さんが感じているより、多いんじゃないかと思いますね。」

身近にいないと、遠い存在だと思いがちかもしれませんが、障がいを持つ皆さんも、地域社会の重要なメンバーであることを再認識しました。

『舞台は”一般市場“』

「NPOは”非営利”の組織ですが、やはり自分たちで収益を上げていかないといけない。

行政の助成金などを活用することも大切だけど、行政に頼らない経済的な基盤を持てるなら、それが理想的だと思うんです。」

そのためには、「福祉」の視点ではなく、「一般市場」「消費者」の視点で、自分達の事業を評価することが不可欠。…それが山田さんの持論です。

「たとえば、商品の組み立て作業を依頼された場合、”納入期日を守ること”と”作業の質を落とさないこと”は絶対に守るようにしています。」

そこには経営者としての厳しさとプライドが、かいま見えます。

※このページの写真および画像の提供：（特活）ハートオブマインド

▲2階建ての建物にはたくさんの部屋と広大な作業スペースがここで、様々な内容の“お仕事”が進められる

障がい者支援のNPOということで作業にかかる費用は他の業者と比べて一般的に低めで、発注側も、それが魅力で依頼してくることが多いとか。

でも、組み立てられた商品が出回るのは普通の量販店や小売店などです。

納期も品質も、作業する側の都合など気にしてはくれません。これまでに発注企業側のいたしかたない理由で、作業時間の余裕がなくなることもありましたが、それでも現場のプライドを持って間に合わせたそうです。

「もちろん、そのために社員に負担をかけてしまうのでは本末転倒なので、うちの組織全体として、どう仕事をマネジメントしていくのか…

そこが我々運営側の責任だと思うんですね。」

このストイックな姿勢には、別の意味もあります。

「そういう態度で僕らが頑張っているのを、社員のみんなも感じ取ってくれているみたいです。

確かにハードルが高めの仕事もあります。でも、それをやり抜いた経験が社員にも団体にも”本当の自信”となってくれるんじゃないかな。」

厳しい市場をターゲットにするからこそ得られる”本当の自信”。

それは、障がいを持つ皆さんの自立にとっても、かけがえのない宝物となるに違いありません。

また、そうやって培った信頼によって、今では特別に営業しなくても、多くの仕事のオファーが入るようになったそうです。

『僕が助けられた』

山田さんは『ハートオブマインド』設立前の10年ほど、市外の障がい者福祉施設に勤務していました。

設立を機に、定年前で職場を離れる時には、「なぜ、わざわざ苦労する道を選ぶの？」とも言われたそうです。

「でも、少人数の社員ひとりひとりにしっかりスタッフの目が届く…そんな施設を作りたかったんですね。」

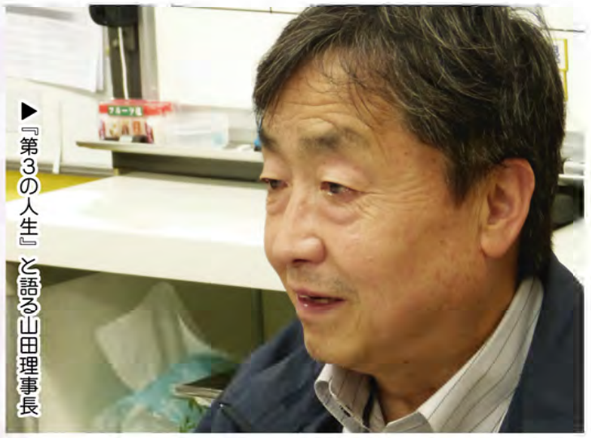
福祉の世界に関わる前には、自分で企業を起こしたこともあり、人間関係やお金のことで、大変な苦労をされたこともあったとか。

「そんな後に、障がい者の方たちの純粋さに触れることがあって、心が洗われるように感じたんですよ。

…正直あの時は、僕が障がいを持つ皆さんに助けられたと思ってます。」

起業、市外の施設での時間を経て、今は『第3の人生』として「恩返しをしているつもり」という山田さん。

『ハートオブマインド』での経験をステップに、一般企業に就職（一般就労）した障がい者の方は、まだ数名ですが、それが叶った時には、心底嬉しいそうです。



▶『第3の人生』と語る山田理事長

「将来の夢ですけど…

障がい者の方たちが、子どもの時から歳を取って人生を終えるまでの間、自立して生きていけるような”サイクル”を築き上げたいんですよ。

本人にも、そのご家族にも安心してもらえるようなね…」

優しい眼差しと、強い意志。そして自分の弱さも認めた謙虚な物ごし…

そんな山田さんの言葉からは、障がい者の方のためだけでなく、全ての人に向けた『ユニバーサル（普遍的）』な社会の理想像が伝わってくるようでした。

基本データ

〒916-0019
鯖江市丸山町4-301-2
TEL:0778-42-5980
FAX:0778-42-5981
http://mahounotane.sakura.ne.jp/
info.heartofmind@gmail.com

- 代表者…山田 善宣
- 活動開始…2012年10月
- 正会員数…10名（2016年3月現在）
- 賛助会員…なし

◎活動目的

障がいを持つ人が社会の中で当たり前に働くことで、社会の一員として認められるよう支援しています。

「OSANPO」編集後記座談会

記事の草稿もほぼ出そろった1月、今年も「編集後記座談会」が鯖江市某所で開かれました。新人さん大量参加の『5歩目』！それぞれの才能のきらめき(?)を、誌面以上に、この座談会から感じていただけるでしょうか？

☆マボロシの…

A　ホントは今号から「表紙一新！」の予定だった。ほら！（試作してみた『表紙案』を掲げる。）

B　わ、渋め路線～☆　う～ん…確かにカッコイイっちゃカッコイイ……ケドぉ…

A　そぉ。な～んか「OSANPOっぽくない」ってコトになって。

B　じゃ、結局どんなデザインに？。

C　まだマッシロ！（笑）　『OSANPOらしさ』の雰囲気考えると、今年の取材イベントの写真からセレクトするのはアリかなって話してるとこ。　あ、写真て言えば、今年から取材に参加してくださったDさん。地域配布の某冊子の写真なんかも撮影してるから、取材には慣れてるんでしょ？

D　いや、インタビューはあんまりしてなかったから、ちょっと勝手が違ったかも。原稿書きもネ。　写真は好きに撮ってるだけだし。でも何年か前に比べたら、Dさん写真のウデ上げてる！

A　うんっ!!

D　あはは～☆　自分でも昔の作品見てて「なんでこんなん撮った？」ってのあるある。（笑）

☆原稿は熱いうちに書け？

C　以前の座談会でも似たような話をしてたけど…　今回は、Eさんの原稿アがったのが、異常に早かった！　メールが届いたの、インタビューの翌日でしたっけ？　「他のライターになんちゅープレッシャーかけよるかなぁ～」ってめまいがしましたよーぅ。（笑）　あの時点で、他の団体さんにはインタビューすら出来てなかったですもん。

E　だって、頭の中に残ってるうちに少しでも書き進めないと、ナニに感動したとかも、ドンドン忘れちゃうじゃないですか。（笑）

B　わかっていても、それがなかなかデキないのが『人間』というものなのに…フッ。

E　あ、ちなみにインタビューの時、取材記録で必ず音録するでしょう。　あれ、どれくらい聞き込みます？

A　取材のじゃないけど、『出発号』の座談会の音録は、面白くて2回も聴いた。　おかけで、貴重なお休みの日を、まるまる1日使っちゃったな…

B　私は、まず聴きながら、文章を起こすところからする。

D　確かに色々忘れてても、聴けば、現場の雰囲気とか思い出せるし。　ですよね。　でも、ずーっと聴き続けてると、なんだか全体のメリハリに、鈍感になっていっちゃいそうな気もして…

C　あ…実はちょうど、こないだプロのフリー・ジャーナリストさんと、そんな話をする機会があったんですよ。　僕らの取材に当てはまるかどうかわからないけど、結局は『音録』よりも、取材時に書いた『メモ』の方が、原稿の組み立てとか考えるのには役立つんですって。　その時重要だと思ったことにマルつけてたり、関連しそうな言葉どうしを矢印でつなげてあったり…　そういうので全体の『流れ』が見えてくるのかも。

A　まぁ、プロとおんなじことはナカナカね。　自分たちは、ひとりひとりがそれぞれのやり方で、精一杯の記事にしてけばイイと思う。

☆距離感

D　初心者っていえば、Fさんも『OSANPO』に関わるの、初めてですよね？

F　そう。取材は、ほぼ初体験みたいなもんやったし…相手との距離感とかって気になったかなぁ…

G　難しいですよねぇ。

E　ボクの場合は、インタビューの相手が、学校の先生としてお世話になった人だったから、顔はよく知ってました。　でも、お互いが『社会人』としてインタビューするとなると、昔の人間関係とは、また違うでしょ。

F　結局、取材の内容とは関係ない話とかしてる中で、少しずつ間合いを詰めてくカンジかな？　一種のアイスブレイキングですよね。ただ、『そういう雰囲気』になったからこそ、初めて話してくださった…みたいな内容、なかった？

G　うんうん。あった！

☆『特別』なインタビュー

A　自分が取材させてもらった『日本NPOセンター』の職員さんたち同士も、「こんな話、お互いにしたことなかったね」なんて言ってくれてた。

C　取材そのものが、そういう『きっかけ』になってくれるのは嬉しいな♪

G　『ハートオブマインド』さんの時も…

B　そう。理事長さんが「こんなこと取材で話したの初めてだなぁ」みたいに言ってくださってた。

C　確かに、あれは印象深い取材だったわ。

A　そういう『場』ができあがって、『特別な話』をしてくれるインタビューって貴重だし、本当にありがたいと思う。　でも、逆に「どこまで記事にしてイイのかな？」って悩みもある。

F　…なるほど。

A　大抵は、そんな深刻に悩むことでもないんだろうけど。

C　まぁね～。　実際、そんな『特別』な場がいつでもできあがるような取材スキルは、まだまだ我々には…（笑）　精進、精進っと☆

A　いや、あのさ…もしかすると、そんな取材ができる条件て、スキル以外のことが大切なんじゃ？

C　おー！　なんか説得力ある～。

☆取材と信頼

E　今の『特別』の話もそうだけど、『OSANPO』に関わってると、読者の人とか取材する団体さんとか、もちろんそこのメンバーのひとりひとりとか…　いろんなバランスや繋がりの中で、奇跡的に『形』になってる本なんだな～って思いません？

C　まぁ、もともと、ただ情報発信するためっていうより、「作る課程そのものが大切」ってスタンスで始まったプロジェクトだけど。

B　わ、また『深い方』にいきそう…

F　…ってゆーか…この座談会自体が、どんな『深さ』で話したらイイのか、つかみ所なくないか？

A　ここは、どんな深さでもゼンゼンOKデース！　まとめるのが大変なのは、この記事の担当さんだけデース!!

（注）この時点では、まだ担当者は未定。

D　あはは～☆　なにはともあれ『OSANPO』を通じて、いろんな団体さんや関係者の皆さんに『繋がってもらえた』ことを大切にしないとですよね～。

（全員納得！）

❀　❀　❀

…ということで、『5歩目』もこれにて無事終了となります。　もしかすると、取材や記事を書くことは、『情報』だけでなく『信頼』をキャッチボールすることなのかも…　そんなことをちらっと感じた座談会でした。

来年度以降も『6歩目』に向けて、どんどん取材活動を行う予定です。　もちろん、団体さんからのオファーも大歓迎！

では、また次号でお会いすることを楽しみに!!

広報メンバー募集!!

あなたもいっしょに『OSANPO』を作りませんか？
人とお話しするのが好きな方、文章を書くのが好きな方、デザインやイラスト作成が好きな方など、ぜひお気軽に事務局までご連絡ください。
待ってまーす！

[ご連絡先]
■さばえNPOサポート事務局
ＴＥＬ：0778（54）7055
Eメール：info@sabae-npo.org

Copyright(C)2016 SABAE NPO SUPPORT

『OSANPO』では、これからも鯖江の市民活動団体さんを、どんどん掲載させていただきたいと思っています。
「ぜひ、私たちのことも取材して！」という団体の皆さんは、さばえNPOサポートまでご一報ください。

『OSANPO～5歩目～』
●2016年3月 初版発行
●発行人：広報委員会
●発行所：特定非営利活動法人
さばえNPOサポート
福井県鯖江市長泉寺町1-9-20
TEL:0778-54-7055
FAX:0778-54-7058
E-mail：info@sabae-npo.org
●http://sabae-npo.org/